安成通信　2017/03/31　人類世（人新世）をめぐって

このところ、地球研でも、「人類世（人新世）：英語では Anthropocene」* に関連したシンポジウムやセミナーなどが続きました。新しい風土論（環世界学）を提唱されて今年の『KYOTO 地球環境の殿堂』入りをされたフランス高等社会科学研究院のオーギュスタン・ベルクさん（地理学・哲学）を囲んで、「地球の住まい方」という特別シンポジウムを、3 月 15 日に一般公開で行いました。このシンポジウムでは、私がまず、20 世紀（後半）以降の人間活動の右肩上がりの急激な拡大と、それに伴う地球環境の急激な悪化で象徴される「人類世」の実態を述べ、ついでベルクさんがこのような地球環境の悪化を招いた背景にある西欧的な近代思想の問題とそれを克服するための新たな風土論の視点を、訥々と話されました。その後、ベルクさんと私の対談で締めくくりました。2 時間半にわたるこのシンポジウムは You Tube で同時配信されました。やや難解なテーマながら、ベルクさんも私もかなり分かりやすくと心掛けた議論を、研究者でない市民はどのように理解し、受け取ってくれるかと大変気になりました。で、この YouTube 配信を、高校などの同窓の友人たちに紹介したところ、2 時間半にわたるシンポジウムの全記録を聴いてくれた上での貴重なコメントをもらいました。

＜僕の勝手な推察に過ぎないのですが、「人類世」を突き詰めていくと、「人類社会が進歩するように運命づけられている」という信念は、危うくなるような気がします。＞（高校同窓の A さん）
＜人類の思いが、同じような方を向いて、社会のエートスが、世界規模で「発展」より「生存」を優位に置くようになれば・・・ということなのかしらん。今のところ、その方法は見つかっていない。＞　（同じく A さん）
＜人間が自然を支配していこうとする文化が　結局は地球環境を破壊してしまうことでありそれを危惧する科学者たちの声が聞こえてきました。深い問題であることがよく分かりますが,…. この地球上に爆発的に増え過ぎた人口問題の解決策がないかぎり破壊状況を止めるのは難しいのではないか。＞（小学校同窓の B さん）
＜環境が悪化し食糧や水が不足すると、結局武力とか暴力によって強いものがそれを奪うことになるのではないか？　人間はそれを解決する叡智を持ってるだろうかとやや悲観的になってしまうのですが、安成くんやあとに続く研究者たちにエールを送ります。＞　（高校同窓の C さん）
＜安成くんが所長の「総合地球環境学研究所（地球研）」は、自然科学だけではなく文理融合的な研究を行っているというのは必要なことだと思います。また、単に研究するだけではなく、解決に向けて考えていくというのも、まさにそうでなければと思います。＞　（同じく C さん）

励ましの嬉しいコメントと共に、地球環境問題の解決には、市民と研究者との相互理解と協働が不可欠であることを改めて実感しました。

*人類世（人新世）については、安成通信 2016/11/22 （国のあり方についての断想）を参照してください。